

2022年7月15日

苫小牧市長
岩倉 博文 様

子どものいのちを守る議員連盟
会長 矢嶋 翼

苫小牧市における児童相談に関する要請書

苫小牧市議会では、虐待をはじめとするあらゆる危険からこどもの命を守ることを目的に、議員有志による『子どものいのちを守る議員連盟』を設立し1年が経過しました。コロナ禍の今般、思うような活動が難しかったものの、昨年7月と今年5月に、室蘭市児童相談所苫小牧分室（以下分室）職員及び苫小牧市こども相談課職員との懇談をおこなうことができ、様々な課題が見えてきました。

本市では、分室設置にあわせ苫小牧市こども相談センター（以下センター）を併設し、全国的にも先進的な取り組みがスタートしました。この形態により、綿密な打ち合わせによる効率的かつ効果的な対応が図られ、こどもの命を守るうえで他都市にはない連携強化が図られたことは大いに評価いたします。

しかし、他自治体では本市のような形態がないだけでなく、協力体制や連携体制が希薄だと聞いており、本市のセンターの形態はモデル的なもので優れた取り組みであることを踏まえ、市として全道・全国に発信していくことが、子どもの命を守ることにつながると確信するものです。

一方、分室には一時保護所がないため、一時保護児童の面接のために室蘭市まで往復しなければならず、一定の時間を有します。そのため、分室の職員定数は満たされているものの、室蘭まで往復する時間や仕事量は加味されておらず、職員の大きな負担となっています。

また、児童相談所の役割として重要な障がい等の判定に関する相談業務では、相談件数が増加傾向にあるため、現状では2ヶ月待ち、3ヶ月待ちの状況であり、その改善も待たれております。

さらに、分室に求められる多様な役割を補完し、子どもの命を守ることに責任を果たすためには、センター機能の強化は欠かせません。昨年度から、こども相談監が配置され、機能強化が図られましたが、今後も継続的な配置が不可欠です。あわせて市民の複雑化する相談に應えるためには、社会福祉士などの資格を有する専門職の配置が求められ、早急な対応が必要です。

最後に、本市における里親制度の拡大も急がれます。道内には乳児院が2カ所しかなく、本市でも0歳児から2歳児の乳幼児を受け入れてもらえる里親を確保することに苦慮しています。また、一時保護機能を補完するためにも、里親制度拡大の啓蒙活動が期待されています。

よって、本議員連盟は、市として北海道に対し必要な措置を講ずるよう求めるとともに、本市においても早急に対応するよう、以下の項目を強く要請いたします。

記

- 1、児童相談所分室の職身体制を強化するとともに、一時保護にかかる職員の負担軽減を図るよう、北海道に要請すること。
- 2、障がい等の判定業務をスムーズにおこなえるよう、北海道に要請すること。
- 3、先進的なセンターの形態・機能を全道・全国に発信し、子どもの命を守る綿密な体制が図られるよう、市として積極的に働きかけること。
- 4、こども相談センターにおけるこども相談監と専門性を有する職員を継続的・恒常的に配置すること。
- 5、里親制度の拡大のために、市は北海道と協力して啓蒙活動等に取り組むこと。

以上